ふるさと宿南

★　第１５７号　★
発行　令和６年８月
宿南地区自治協議会
TEL：662-3400　fax：660-3261
Email：kyosyukunami@maia.eonet.ne.jp

ボウリング大会を開催しました

恒例のボウリング大会も１９回目を迎え７月１３日（土）アーバンボウルにて開催しました。皆さん早く集合していただいたので予定時刻より少し早目にスタートすることができました。今回から、一般と小学生の２部に分け小学生はハンデイを廃止しました。一般の部２４名　小学生の部８名で熱戦が繰り広げられました。

上位入賞者

【一般の部】

優勝　　２８８点
　維田　浩之 さん
準優勝　２８５点
　西村　勲 さん
３位　　２８０点
　片山　博文 さん

【小学生の部】

優勝　　２０６点
　田中　仁大 さん
準優勝　１９７点
　池田　悠太 さん
３位　　１９３点
　土井　彗叶 さん

次回は令和７年２月１６日（日）冬季のため昼間の開催とし、午後１時３０分スタートで開催予定です。１月中旬に募集案内は配布予定です。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

そうあんの里 夏のつどいを開催しました

７月２１日（日）ふれあいホールにおいて３０名の参加で開催しました。今回は‘楽しい音楽のつどい’と題してサックス奏者の藤本サオリさんを迎え約１時間、音楽を楽しみました。打楽器・弦楽器・管楽器の説明を受けて実際に音色を聞いたり、生演奏に合わせて全員で一緒に歌を歌ったり、地元の音楽好き西村翔吾さんのギター、藤本サオリさんのサックス、維田浩之さんのホルンで３重奏も聴くことができました。

当日は「ひまわりカフェ」もオープンし平日には来店できない方にも多く利用いただきました。

身近で見られる植物　㊴

ムクゲ（木槿・無窮花）〈アオイ科〉

庭の生け垣などに植えられる中国原産の樹木ですが、記録には、奈良時代からこの木の存在が記されています。
韓国の国花でもあります。
早朝から花が咲き、夕方にはしぼんでしまう儚い「一日花」ですが、翌日には次々と新しい花が咲くことから「新しい美」という花言葉がついています。

ラジオ体操　実施中

７月２２日（月）から夏休み期間中各地区で実施されています。雨の日・土曜日・日曜日・祝日・お盆の期間は休みです。子供達は早くに起きて参加しています。有難いことに子供の参加者より大人の参加者が多いことです。

大人の方はやっぷ一健康ポイントの付与対象です。夏休みが終了しましたら自治協まで**ラジオ体操カード**をご持参下さい。（８月中に）やっぷースタンプを押しますので**健康ポイントカード**もご持参ください。

お知らせ

８月２３日（金）地蔵盆
８月２６日（月）小・中始業式
９月２２日（日）宿南地区総合運動会
８月２６日（月）自治振興部会（地域づくり計画について）
９月１５日（日）小学校グラウンド芝刈り（当番　体育部）

草庵先生紹介

日記　６６

青谿書院に来た相馬九方とその家族。九方の野武士のような風貌は、応対に出た塾生を驚かせた

宮崎和夫さん作

池田草庵が自分の師として名前を挙げる人は２人いる。１人は満福寺の不虚上人、それからもう１人は儒学者の相馬九方である。その師相馬九方が、初めて青谿書院を訪ねて来た。

「早起き、黙座。講義は『十八史略』。検読３人。（中略）。相馬先生が来られた。しばらくして帰られた。（後略）」（安政５〈１８５８〉年８月２２日）

九方に出会うのは京都時代以来、十数年ぶりだった。この時は九方は家族で湯島（現・豊岡市城崎町）に行く途中だったということもあってわずかな時間の再会だった。九方は体の弱い妻の保養が目的だったが、幼い２人の女児を連れての旅だった。

そのころ九方は、岸和田藩に藩儒として召し抱えられ、藩校である講習館で若者たちを教えていた。それだけでなく、岸和田藩の藩政にもかかわるようになっていた。元藩主から「これまであなたのような素晴らしい人物を知らなかったことが残念でならない」との書を受け取ったと言われている（大阪府岸和田市のホームページから）。草庵が九方を師としていつも敬っていたのは、若いころ自分を導き教えてくれたからだ。草庵が満福寺での修業時代、九方は招かれて京都から広谷（現・養父市広谷）に来て、儒学の講義をしていた。その講義を聞く機会のあった草庵は感銘を受けた。九方が１年間余りの講義が終わり京都に帰るとき、講義を受けた若者数人が広谷の一隅に集まって、別れの酒席を設けた。その席で、みんなを代表して九方に別れの言葉を述べた。その言葉に感激した九方は「それをまとめて私への贈り物としてほしい」と言った。それをまとめたものが「送図南相馬先生洛序」（図南＝九方の号=相馬先生の京都にいくを送るの序）である。草庵１７歳の時のことだ。それを見ると文章といい文字といい、満福寺での数年間の修業で、草庵が漢文などの読み書きの力をどんなに伸ばしていたかがわかるものだ。

その中で草庵は「私を産んだのは父母、私を教え導いたのは九方先生」と書いている。九方を父母と並べて書き、いかに尊敬していたかがわかる。草庵はこれを書いて１カ月後、寺を出奔して京都の九方の元に走った。それ以来、九方は草庵の師であった。

池田草庵先生に学ぶ会